

平成27年10月20日

安仁神社と『一遍上人絵伝』の藤井の政所

先史古代研究会 丸谷憲二

1 はじめに

藤井駿氏の『一遍上人の備作地方布教について』の論文は、「一遍と備前国藤井の領主」に関する詳細な報告書である。藤井駿氏は昭和13年11月25日成稿し、『吉備考古』46号と47号に掲載され、昭和55年の『吉備地方史の研究』に収録されている。しかし、地元では知られていない。

2 『一遍上人絵伝』の福岡の市



「一遍上人絵伝」に、備前福岡市が描かれている。一遍がまさに武士に切れそうな場面である。一遍に対してまさに太刀を抜こうとしているのは、吉備津神社の神主の息子である。彼の妻が留守中に一遍によって出家させられたと激怒し追いかけて、まさに一遍を切ろうと息まいている。



2.1 備前藤井の政所の屋形 (第四卷第三段)

左手に一遍がその神主の息子の髪を下ろしている。神主の息子は一遍に説教され時宗に帰依した。この備前での布教場所が藤井の政所である。

3 鹿忍荘政所

一遍は、九州での遊行を終え京都へ向かう。その途中立ち寄ったのが藤井の政所と備前福岡の市である。備前福岡の市が描かれたのは、藤井の館での出来事による。藤井の館の出来事が無ければ備前福岡の市も描かれなかった。藤井の政所が重要である。政所とは政務を執り行う所、政庁である。

3.1 藤井の政所 海路説

藤井の政所については2説ある。陸路説は岡山市東区藤井(上道郡古都村大字藤井)である。

海路説は、岡山市東区西大寺一宮藤井(邑久群大宮村大字藤井)、安仁神社の鎮座地である。当時の安仁神社は式内社備前国一宮であり、吉井川を利用しての福岡の市遊行である。藤井の政所(まんどころ)の家主が吉備津宮の神主の子である。吉備津神社の社家が藤井氏である。つまり、安仁神社の膝元まで吉備津宮の勢力が伸びていることの記録である。

1324年(元享4)4月19日『備前安仁神社文書』の「備前国鹿忍庄下寺・同豊原庄雑掌和興状案」に、「備前国鹿忍庄下司藤井孫次郎惟景(これかけ)」とあり、下司に注目したい。政所の家主とは鹿忍庄の下司を指し、藤井の政所とは、鹿忍庄の下司の家を指している。下司が藤井と名乗っている。下司とは荘園の事務官であり事務所を政所といった。政所は政庁の意味であるが荘園の役所は同時に荘官の邸宅であった。

1373年(応安6)の弘法寺領紛失状に「葛井里(ふじいり)八坪」とある。葛井里は藤井村の内であり、藤井は葛井里からの変化であろう。藤井孫次郎惟景が豊原庄の雑掌(ごっしょう)某と争った文書には藤井村とあり、地名の起源は鎌倉時代までさかのぼる。

3.2 安仁神社と備前一の宮

『続日本後紀』の承和8年(841)2月8日の「備前国邑久郡安仁神預_二名神_一焉」が初見である。延期式の名神大社であり備前国の二の宮である。『岡山県史・中世I』で中野栄夫氏は「古くは、備前国一宮であったとみられる。平安末期に、備前吉備津彦神社の勢力がもたげて、そちらが一宮となり、安仁神社は二宮の地位に後退したようである。」と推定している。吉備津宮と安仁神社との勢力交替説である。

明治8年に社務 太美大造氏の『安仁神社御伝記』では、祭神を五瀬命としている。『特選神名牒』は、「五瀬命というは妄説なり」と批判しているが、大歳神社の存在から五瀬命が正しい。太美大造氏の姓は藤井である。

3.3 一遍上人と備前一の宮

一遍上人は、諸国遊行の途中、神社仏閣の中でも一宮に立ち寄っている。この藤井に立ち寄ったのも備前一の宮である安仁神社に詣でるためである。

4 藤井の政所の所在地

藤井の北部「硫黄山」の南東部、藤井川が形成した扇状地部分に、『西大寺一宮苗圃公園』がある。公園入口に館遺構がある。古くから殿屋敷と称する地名が残されていた。元文二年(1737)編纂の地誌『備陽国誌』十三之巻に、「藤井孫次郎惟景・元享以前の人 鹿忍庄下司とあり、藤井村の人なり、宅地の跡を殿屋敷と云ふ今は畑と成る。」と記録されている。トレンチにより捨石状の石組遺構が検出された。この石組遺構は、伴出する土器から鎌倉前半期の構築と断定された。館跡は、岡山市教育委員会によって、安仁神社文書や弘法寺文書に散見される藤井氏一族(中世武士)の館跡と推定されている。



5 まとめ

藤井駿氏は、「鎌倉時代末期の備前藤井の地は、土豪の藤井氏が幡居し、また安仁神社、弘法寺、蓮華寺など、この地方の大寺大社の所在地として、地方信仰の中心であり、同時に地方文化の一中心であったに相違ない。一遍が遙々この地に遊行留錫したことは、また当然のことであったといえる。」と報告している。大社に大歳神社を追加報告する。

藤井駿氏の昭和13年11月25日成稿の論文「一遍上人の備前地方布教について」の「一遍と備前国藤井の領主」が地元知られていない。岡山市教育委員会の岡山市西大寺一宮 育苗公園発掘調査現地説明会は、昭和52年5月であり、『吉備地方史の研究』発行は昭和55年である。地元民に知られない論文の要点を紹介した。「藤井の政所所在地」の案内板設置を要望したい。吉備津神社の社家が藤井氏である。藤井駿氏の先祖の逸話報告である。

6 参考文献

- 1 『岡山市の地名』平成元年 岡山市地名研究会 岡山市
- 2 『岡山県の地名』1988年 平凡社
- 3 『岡山県古文書集 第三号』藤井駿 水野恭一郎 昭和31年 山陽図書出版
- 4 『式内社調査報告 第22巻』
- 5 『岡山県史 第四卷中世Ⅰ』平成二年 岡山県史編纂委員会 岡山県
- 6 『備作之史料(四) 備前記全』平成5年 備作之史料研究会
- 7 『一遍の宗教とその変容』金井清光 2000年 岩田書店
- 8 『一遍聖絵六条縁起』浅山円祥校証 昭和15年 山喜房書林
- 9 『国幣中社式内安仁神社御由緒調査書』大正14年 安仁神社社務所
- 10 『神道体系 神社編三十八 美作・備前・備中・備後国』昭和61年 神道体系編纂会
- 11 『岡山県社寺所有資料調査報告書Ⅰ安仁神社他』平成3年 岡山県教育委員会
- 12 『岡山市西大寺一宮 育苗公園発掘調査現地説明会資料』 岡山市教育委員会・
岡山市遺跡調査団
- 13 『日本絵巻大成別巻 一遍上人絵伝』小松茂美 昭和53年 中央公論社
- 14 『吉備地方史の研究』藤井駿 昭和55年 山陽新聞社
- 15 『岡山県古文書集 第二号』藤井駿 水野恭一郎 昭和30年 山陽図書出版